

寒冷期津波における 避難行動と避難生活

根本 昌宏



日本赤十字北海道看護大学 災害対策教育センター

令和5年10月1日
令和5年度 北海道防災気象講演会

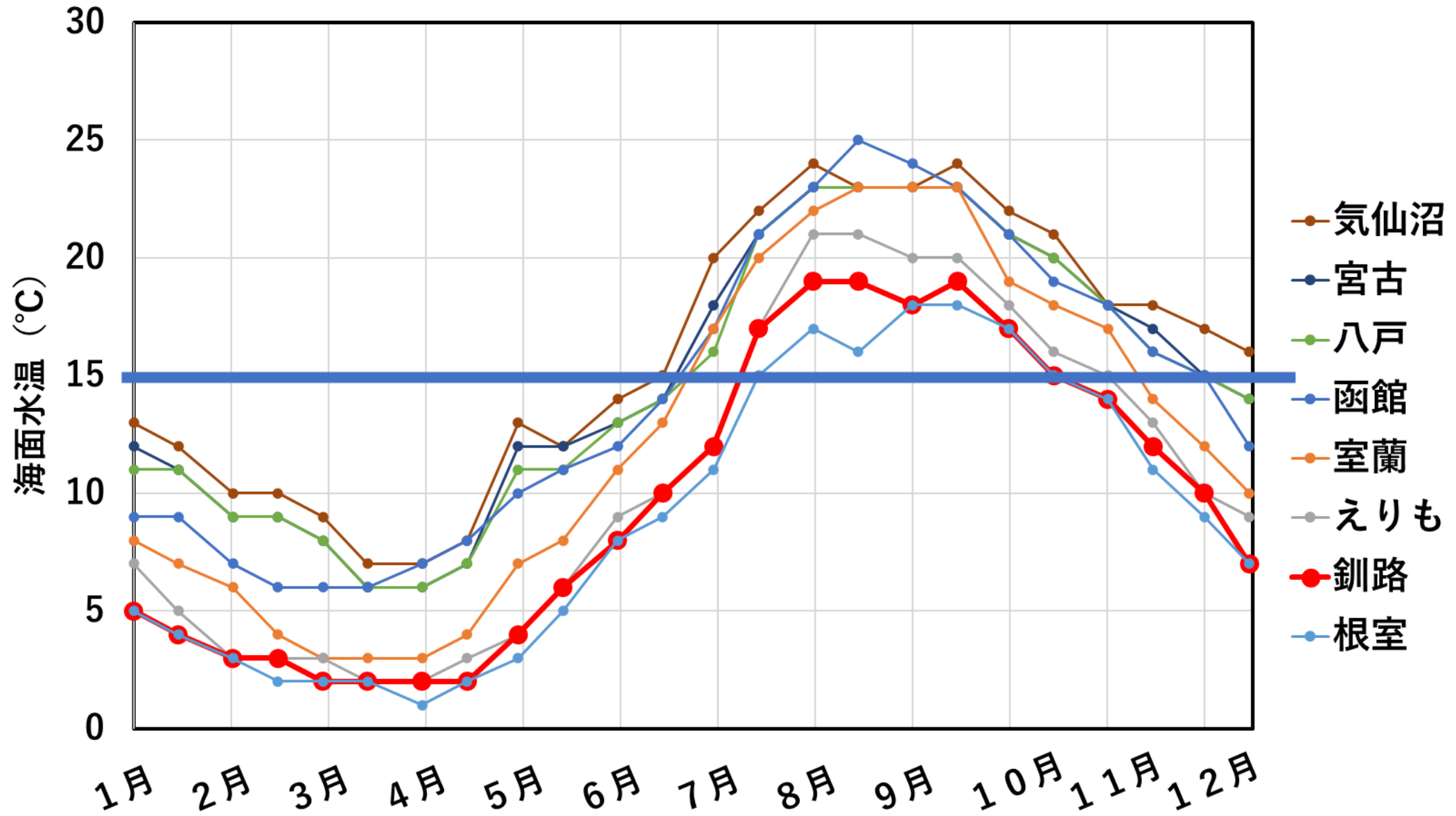
北海道内被害想定（北海道庁 令和4年7、12月公表）

	日本海溝	千島海溝
死者数	14万9千人	10万6千人
低体温症要対処者数	6万6千人	1万5千人
避難者数	25万3千人	5万9千人
断水（2日後）	2万5千人	1万4千人
下水道断	57万9千人	23万3千人

冬の夕方、早期避難率が低い場合を想定



海面水温の推移



出典： 気象庁 海面水温データより



北海道の低体温症対策（夏・冬とも）

最優先：すぐに逃げる ために：玄関に防寒着、冬靴

優先順位 1 濡れたままにしない：乾いた衣類

優先順位 2 床に寝せない：ベッド化

優先順位 3 直接加温 = 表面積のある湯たんぽ

優先順位 4 カロリーのある食べ物・飲み物

低体温症は**予防**ありき

津波だけでなくすべての災害に共通



逃げろと言われて、**冬10分以内**に逃げ始められるか？
逃げろと伝えて、**冬10分以内**に逃げ始めてもらえるか？

揺れは5分続く可能性がある

住民側：情報待ち（情報途絶）、指示待ち
→逃げ遅れに直結

行政側：情報収集、情報発信
問い合わせ・電話等対応に追われる

**ひとりでは逃げられない方→個別避難計画
積雪路面の車いす**



北海道の津波避難に求められることは

1. 今まで以上に逃げることの重要性：冬でも速く濡れない避難行動を踏まえた避難所・避難生活計画
2. 地域性・季節性を受援者、支援者両面から
3. 普段使い→有事運用（上履き、枕、寝袋）
4. 備蓄物資の見直し、洗い出し（まずは衛生、排泄）
5. 実物資を使用した訓練（ヒト、モノ、連携）

やったことがないことを、本番で行うことは不可能です。

